

デジタルカメラで動画撮影するコツ

動画撮影のコツ

【撮影設定】 画像と動きの重要度を見極めて撮影サイズとフレームレートを決定

【前後 3 秒を撮影】

必要なシーンの 3 秒ほど前から撮影を始め、3 秒ほど後に終わると編集が楽になる

【光源をバックに】

太陽の光や照明など、光源を自分のバックにして撮影すると、映像が暗くならない

【音声】 音声が必要な映像なら、周囲が騒がしくない場所を選び、対象になるべく近寄る

【メモリーカード】 メモリーカードの予備は極力準備しよう

【バッテリー】 長時間にわたって撮影するときは予備のバッテリーも用意

プレゼンに使う映像素材の撮影は、デジカメを動画撮影モードに設定して行う。設定のポイントは、画像サイズとフレームレートの 2 点だ。

画像サイズについては、最新のコンパクトデジカメなら 1280×720 ドットなどのハイビジョンで撮影できる機種もある。エントリークラスの機種だと、640×480 ドットの VGA が最大となる場合が多い。

動画プレゼンで利用する分には、商品の使用例など細部にわたってしっかりと動画を見せたい場合でも、大抵は VGA で用は足りる。大きな画像サイズで精細な動画を見せたい場合のみ、最新デジカメを使いハイビジョンで撮るとよい。一方、人物のインタビューなどで、それほど大きなサイズで動画を見せる必要がなければ、320×240 ドットの QVGA で十分である。

●動画撮影に適した設定

画像サイズ	フレームレート	ファイル容量	適しているシーン
VGA (640×480ドット)	30フレーム/秒	大	精細な画質で、動きもなめらか。どんなシーンにも適する。ファイル容量は大きくなるのでメモリーカードは大容量のものを
VGA (640×480ドット)	15フレーム/秒	中	画質が重要だが、動きはゆっくりしている場合にお薦め
QVGA (320×240ドット)	30フレーム/秒	中	上記とは逆に、画質よりも動きを重視する場合にお薦め
QVGA (320×240ドット)	15フレーム/秒	小	人物インタビューなど、容量を節約しながら、より多くのシーンを撮影したい場合に

最近ではハイビジョン撮影が可能なデジタルカメラもあるが、ここでは標準画質での動画撮影について代表的な設定を紹介

対象に合わせ設定を変更

フレームレートとは、1秒間の動画に画像が何枚含まれているかを示す数値である。フレームレートが大きいほど、動画が滑らかになる。デジタルカメラの場合、最大 30 フレーム/秒の製品が主流だ。動きが速い映像を滑らかに見せたい場合は、30 フレーム/秒に設定しよう。逆に動きが緩やかな映像なら、半分の 15 フレーム/秒で問題ない。

このように撮影する対象、およびプレゼンの際の見せ方によって、最適な画像サイズとフレームレートを選ぶことが大切である。

●デジカメを動画撮影モードにする

目的に応じて最適なサイズ、フレームレートを選択する



撮影サイズの設定画面例。320×240ドットのQVGAあるいは640×480ドットのVGAを選択

フレームレートの設定画面例。インタビューなど緩やかな動きなら15フレーム/秒でも十分

いざ撮影!

デジカメを動画撮影モードにして、撮影サイズやフレームレートを設定する。インタビューの場合は、解像度やフレームレートは低くてもかまわない

デジカメを動画撮影モードにして、撮影サイズやフレームレートを設定する。インタビューの場合は、解像度やフレームレートは低くてもかまわない

SDメモリーカードなどの記憶媒体の容量も重要だ。動画ファイルのサイズは、画像サイズとフレームレートと撮影時間によって決まる。カメラにより若干異なるが、VGAの30フレーム/秒で1分撮影すると、ファイルサイズは100MB弱になる。設定の違いによるファイルサイズの目安は、デジカメのマニュアルに記載されていることが多いので、それらの情報を参考にしつつ、必要となる容量の記憶媒体を用意しよう。2GBや4GBのメモリーカードなら安心だ。

また、長時間撮影するなら、バッテリー切れも懸念される。バッテリー切れで撮影中止にならないよう、事前にしっかり充電しておくとともに、予備のバッテリーも用意しよう。

映像の撮影中は、手ぶれが起きないように、デジカメをしっかり支えるのが基本だ。三脚が使える撮影場所なら、極力利用するようにしよう。

動画撮影中でもズームできるデジカメなら、ズーム機能を適宜利用する。ただし、ズームするほど手ぶれの影響も大きくなるので注意。また、左右にパンをする際は、デジカメをあまり早く動かすと、映像が見づらくなるので気を付けたい。

前後に余裕を持たせ撮影

画面が暗くならないよう、光源の確保も大切である。太陽や照明を自分のバックにして撮影するのがセオリーだ。屋外で撮影するなら、明るい時間帯を選ぶことも基本である。

また、インタビューなどで音声をしっかり録りたい場合は、周囲の雑音が少ない場所とタイミングを選び、対象になるべく近寄ることがポイントとなる。

そして、後の編集作業を楽にするために、プレゼンに使用したいシーンの3秒ほど前から撮影を開始し、3秒ほど後に終わるのがオススメだ。その前後3秒間には、関係のない映像や音声を極力入れないことが望ましい。必要なシーンを長さギリギリで撮影しようとするとうまく撮れず映像が欠けてしまうことになりかねない。また、直前直後に関係のない映像・音声が入っていると、編集時に必要なシーンを抜き出すのに苦労するからだ。

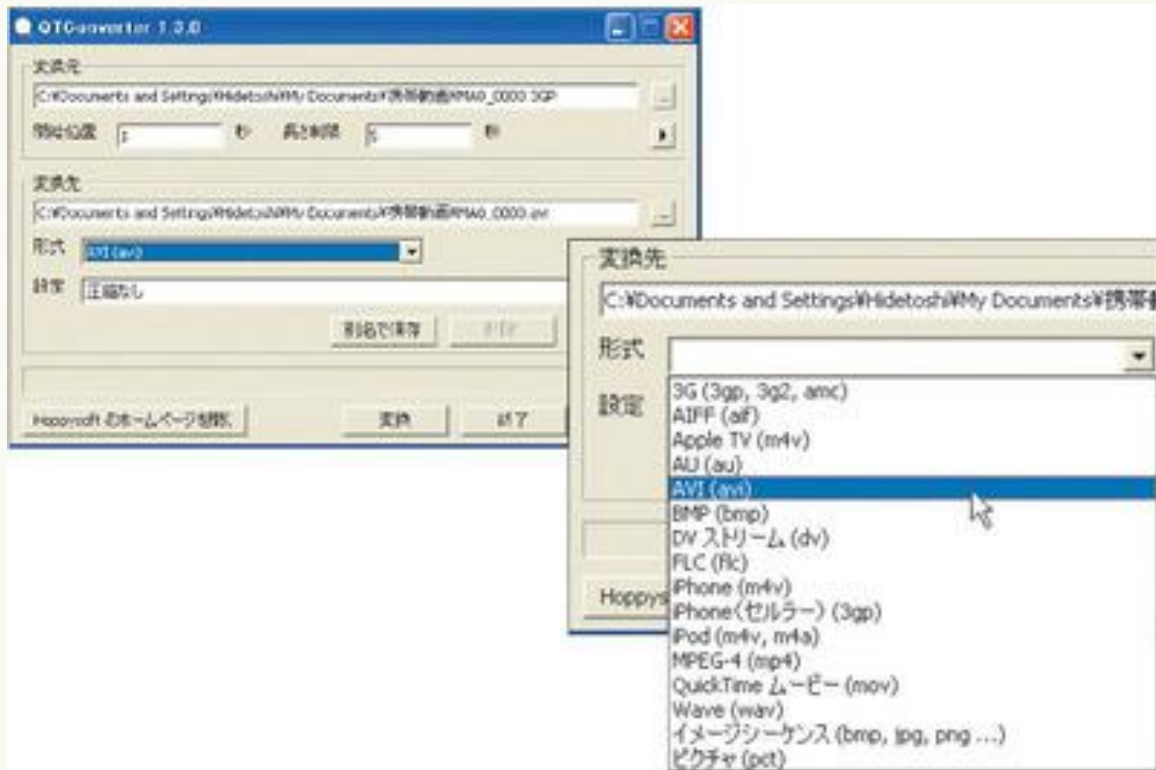
撮影し終えた動画のデータは、パソコンのハードディスクにコピーしておく。もし、動画ファイルの形式がWindowsムービーメーカーに対応していない形式なら、下記の記事で説明している方法で対応した形式に変換しておこう。

ムービーメーカーで扱えない形式の映像や、携帯電話で撮影した映像はどうやって取り込む？

Windowsムービーメーカーがサポートしている動画の形式はAVIやMPEG、WMVなどだ。しかし、デジカメによっては、QuickTimeなどサポートしていない形式の動画を採用している機種もある。また、携帯電話で撮影した3GP形式の動画もサポートしていない。

このような形式の動画ファイルをプレゼンに使いたい場合は、無料の動画変換ソフトの「**QTConverter**」などを使って、Windowsムービーメーカーで扱える形式に変換しておこう。

●無料の動画変換ソフト「**QTConverter**」



「変換元」にて携帯電話で撮影した動画ファイルを指定し、「開始位置」と「長さ制限」を設定。「変換先」に変換した動画の名前と保存場所、形式などを指定して「変換」をクリック → 多彩な出力形式が選べる。Windowsムービーメーカーで編集するには「AVI」を選択

撮影した映像を取り込む

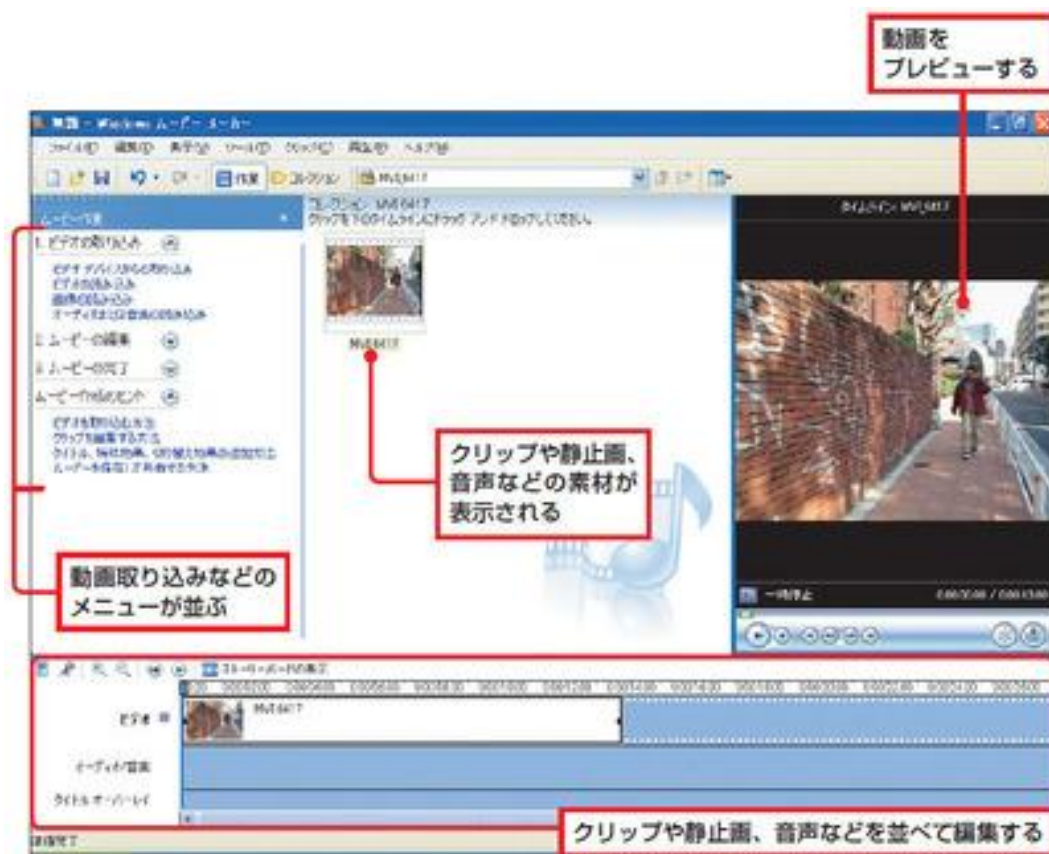
それでは、デジタルカメラで撮影した映像を Windows ムービーメーカーで編集してみよう。Windows XP 用の Windows ムービーメーカーの最新バージョンは 2.1。バージョンが古い場合は、Windows Update (Microsoft Update) で XP を SP2 にアップデートすれば自動的にインストールされる。

最初に必要となる作業は、撮影した映像の取り込みだ。まずは「スタートメニュー」から Windows ムービーメーカーを起動。次に、画面左側にある「ムービー作業」欄の「ビデオの読み込み」をクリックする。または「ファイル」メニューの「コレクションへの読み込み」をクリックしてもよい。

●Windows ムービーメーカーを起動



「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「Windows ムービーメーカー」をクリックする



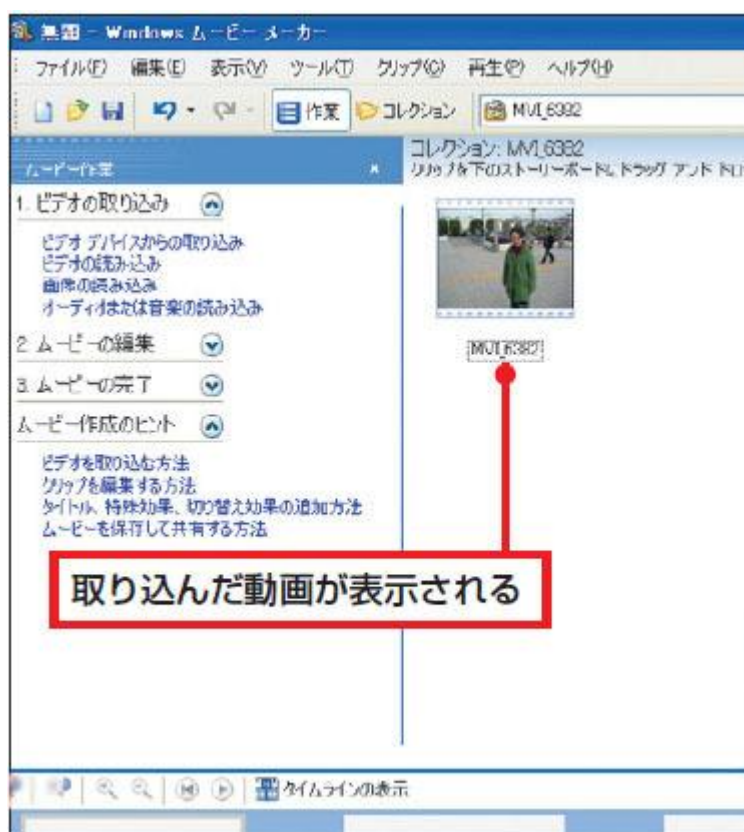
Windows ムービーメーカーの画面。画面下部は、素材を時系列に並べた「タイムライン」になっているが、素材を順番に並べた「ストーリーボード」にも切り替えられる

すると、「読み込みファイル」ダイアログが表示されるので、撮影した映像のファイルを選び、「読み込み」をクリック。これで映像ファイルが取り込まれ、「コレクション」欄にサムネイルが表示される。なお、「読み込みファイル」画面では映像ファイルを一度に複数選べるので、まとめて取り込むと効率的だ。

●Windows ムービーメーカーで動画を取り込む



(左図) 「ムービー作業」欄にある「ビデオの読み込み」をクリック。非表示になっている場合は、「1. ビデオの取り込み」の右隣のボタンをクリックすればよい → (右図) 動画が格納されているフォルダーに移動し、目的のビデオファイルを選んで「読み込む」をクリック



「コレクション」欄に、取り込んだビデオファイルのサムネイルが表示される

●取り込み映像は一度に複数選択できる

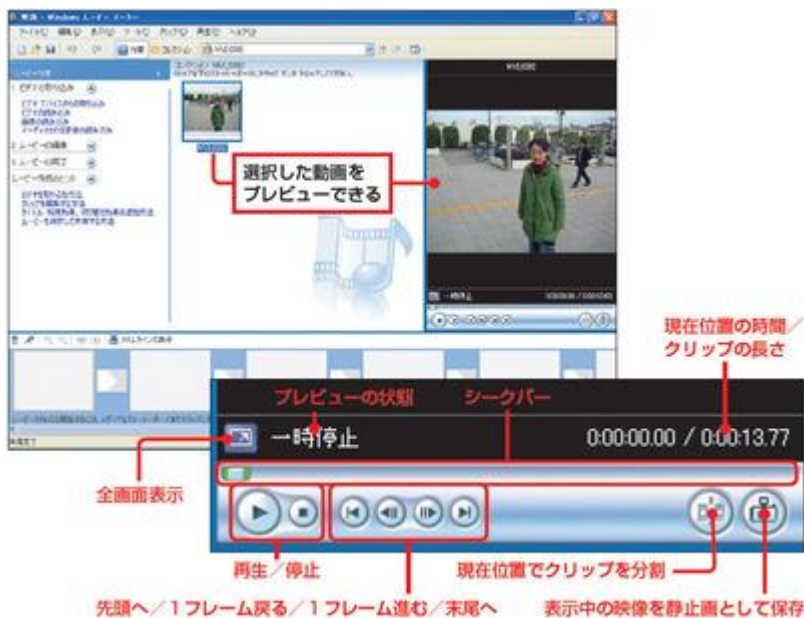


(左図) マウスでドラッグして複数の動画ファイルを選び、「読み込み」をクリックすればまとめて取り込める → 【右図】クリックすれば、ドロップダウンに取り込んだ複数のビデオが一覧表示される

「コレクション」とは、撮影した映像をはじめ、静止画や音声など、ビデオ編集に用いる素材のこと。XP 版の Windows ムービーメーカーでは、「コレクション」欄に1つの映像素材しか表示できず、その上のドロップダウンメニューでほかの映像素材に切り替える。Vista 版のムービーメーカーなら、同領域に複数の映像素材を同時に表示可能だ。

取り込んだ映像は「コレクション」欄でクリックして選択するとプレビューできる。「1フレーム進む」などのボタンや「シークバー」などをうまく使い、目的の映像が正しく取り込めたか、プレゼンに必要なシーンが含まれているか、確認するとよい。

●動画を確認する



「コレクション」に表示されている動画を選択すると、プレビューで再生できる。操作バーの再生ボタンなどを使い、動画の中身を確認しよう

映像を JPEG ファイル化：次ページへ

出典：日経パソコン 2009年4月27日号

- デジカメで撮影した動画を取り込む
- 動画プレゼンで差をつける
- 映像を JPEG ファイル化
 - Windowsムービーメーカーには、取り込んだ映像の任意のシーンを静止画として切り出せるキャプチャー機能も用意されている。プレゼン資料の中で、撮影した映像内のワンシーンの画像を使いたい際になどに重宝する機能だ。
 - キャプチャーの方法はいたって簡単。プレビューにて切り出したいシーンを表示させた状態で、「画像の撮影」ボタンをクリックするだけだ。あとは「名前を付けて保存」画面で、保存先のフォルダーとファイル名を指定すれば、JPEG ファイルとして保存できる。
- ● 静止画をキャプチャーする



- プレビューにて、静止画として抜き出したいシーンで「画像の撮影」ボタンをクリック。「名前を付けて画像を保存」画面が表示されるので、保存先とファイル名を指定して「保存」をクリックする

● 拡大表示

- 次回は取り込んだ映像素材を使い、不要なシーンのカットをはじめとする各種編集を行い、PowerPointへ貼り込む作業を解説する。